



全国クリーニング資材卸商協同組合

〒101-0047 東京都千代田区内神田3丁目5番5号大同ビル6階 電話03(5295)0136 FAX03(5295)0130 発行人 船木春男 編集人 坂本吉敬

# ク代、コロナ前との比較で Y11%、背広16%アップ

※オレンジは前年からの上昇を示す(ワイシャツは17年よりタタミ仕上げから立休仕上げの調査に変更)

	ワイシャツ(円)	前年比(%)	背広上下(円)	前年比(%)
1993年	217.57	2.7%	1,227.12	2.0%
1994年	222.79	2.4%	1,250.25	1.9%
1995年	223.33	0.2%	1,249.47	-0.1%
1996年	223.70	0.2%	1,256.36	0.6%
1997年	227.67	1.8%	1,287.20	2.5%
1998年	229.16	0.7%	1,296.17	0.7%
1999年	228.70	-0.2%	1,294.60	-0.1%
2000年	217.39	-4.9%	1,192.21	-7.9%
2001年	216.87	-0.2%	1,179.01	-1.1%
2002年	215.48	-0.6%	1,169.93	-0.8%
2003年	211.25	-2.0%	1,154.97	-1.3%
2004年	211.14	-0.1%	1,154.73	-0.0%
2005年	210.51	-0.3%	1,149.25	-0.5%
2006年	212.66	1.0%	1,161.85	1.1%
2007年	212.92	0.1%	1,165.23	0.3%
2008年	213.70	0.4%	1,173.20	0.7%
2009年	208.77	-2.3%	1,126.48	-4.0%
2010年	207.28	-0.7%	1,092.14	-3.0%
2011年	205.23	-1.0%	1,077.77	-1.3%
2012年	205.93	0.3%	1,081.41	0.3%
2013年	207.83	0.9%	1,086.86	0.5%
2014年	215.52	3.7%	1,141.77	5.1%
2015年	218.80	1.5%	1,153.64	1.0%
2016年	221.58	1.3%	1,158.33	0.4%
2017年	195.27	-11.9%	1,156.02	-0.2%
2018年	196.06	0.4%	1,175.93	1.7%
2019年	198.98	1.5%	1,211.58	3.0%
2020年	202.21	1.6%	1,247.81	3.0%
2021年	204.88	1.3%	1,271.84	1.9%
2022年	212.10	3.5%	1,328.26	4.4%
2023年	222.05	4.7%	1,413.67	6.4%

## 来月改定の最低賃金は過去最大の引き上げ 2024年も上昇続く見込み

を81(都市の数)で割って算出したもの。なお、都市別の表は6面に掲載しているが、昨年のY価格のトップは北九州で331円、背広のトップは新潟(1945円)で2000円の大台目前となっている。

これらことから、クリーニング価格は下げられる状況になく、2024年も上昇基調は継続すると考えられる。

一方で、パレルや家電、洗剤メーカーによる「おうちで洗えます」の流れは相変わらずで、オフィスカジュアルの進行情もどまる気配はない。となると、そんな中でも引き続き利用してきている顧客の満足度を高めること、寝具類を始めとする大物や靴・鞆など衣類以外のアイテムの拡充、BtoB(法人需要)ビジネスの開拓といった取り組みに一層、注力しなければならぬし、さらなる価格改定、割引抑制等で利益確保に努めていく必要がある。

特にコロナ後には「クリーニングに出すようなものを着ていない」との声が多く聞かれる中で、その料金は大幅アップが続くという大変厳しい環境にあるが、「決してなくなる商売ではない」とも間違いない。生き残っていくために、今まで以上に顧客の声・ニーズをよく聞いてみてはどうか。

通勤・通学も含む「外出自粛」を強いられたコロナ禍を経てクリーニング業界では、店舗や工場の再構築とともに、価格改定(値上げ)が進められた。その動きは昨年、一昨年に顕著で、地域によっては「ワイシャツ300円、背広上下2000円」も珍しくはなくなりそう。

総務省統計局の「小売物価統計調査」によると、昨年のクリーニング価格の全国平均は、ワイシャツが222・05円で、前年と比べると4・7%増。背広上下は1413・67円

で、6・4%ものアップに。Y、背広とも6年連続の上昇となる。

左は1993年以降の料金をもとめたもので、オレンジは前年からの上昇を示す(なお、Yの調査銘柄は2017年にそれまでの「たみ仕上げ」から「立休仕上げ」に変更されている)。

この間は大抵がオレンジとなっているが、前年比をよく見ると、各年の

伸び率はそれほど大きくない中で、昨年のYは4・7%増、背広6・4%増と、一昨年のY3・5%増、背広4・4%増が際立っており、直近の2年で大きく上昇していることが分かる(2014年もY、背広とも大きく上がっているが、この年は4月の消費増税により、5・8%となった)。

実際に、昨年の価格と、コロナ前の2019年と

を比べると、Yは11・6%、背広は16・7%も上昇している。

■全国81都市で調査 この統計は都道府県庁

所在地及び人口15万人以上の市別にワイシャツと背広上下のクリーニング価格を調べており、全国平均は本紙が価格の合計

今すべきことは? クリーニングは新型コロナウイルスという未知のウイルスの影響により、これまで主力だったワイシャツやスーツといったビジネス需要が大幅に縮小。そ

れに加えて、ロシアのウクライナ侵攻で様々なものの価格が上昇。今夏、今秋も資材等の値上がりが行われるほか、10月からは最低賃金が過去最高の50円引き上げられ、全国平均は1054円とな

る。

クリーニング価格は下げられる状況になく、2024年も上昇基調は継続すると考えられる。

一方で、パレルや家電、洗剤メーカーによる「おうちで洗えます」の流れは相変わらずで、オフィスカジュアルの進行情もどまる気配はない。となると、そんな中でも引き続き利用してきている顧客の満足度を高めること、寝具類を始めとする大物や靴・鞆など衣類以外のアイテムの拡充、BtoB(法人需要)ビジネスの開拓といった取り組みに一層、注力しなければならぬし、さらなる価格改定、割引抑制等で利益確保に努めていく必要がある。

特にコロナ後には「クリーニングに出すようなものを着ていない」との声が多く聞かれる中で、その料金は大幅アップが続くという大変厳しい環境にあるが、「決してなくなる商売ではない」とも間違いない。生き残っていくために、今まで以上に顧客の声・ニーズをよく聞いてみてはどうか。

を81(都市の数)で割って算出したもの。なお、都市別の表は6面に掲載しているが、昨年のY価格のトップは北九州で331円、背広のトップは新潟(1945円)で2000円の大台目前となっている。

## 昨年、一昨年で大きく上昇

### KNM GROUP からの新情報提供用ツール

## 肩貼りニュースシター 500枚単位@1,320円税込

「クリーニングの事をもっとお客様に知ってもらいたい!」そんな思いをもつクリーニング店様に最適のツールが出来ました。毎月1日頃に、新しく更新された「肩貼りニュースシター」がお手元に届きます。(毎月1回新しい情報に更新)これを仕上がった衣類のポリ包装に貼るだけで、基礎的なクリーニング情報をお客様にお教えすることができます。

**撥水加工は熱をかけないと効果が十分に発揮できません!!**

ご自宅でお洋服等に撥水スプレーをかけたけど、効果がいまいちだと感じたときは、熱を加えるときに効果を発揮することができます。取り扱った表示に従ってドライヤーで熱を加えるか、乾燥機に入れて熱処理を加えましょう。そうすることで自然乾燥よりも強力な撥水力を得られることができます。

- 1 スプレー前に汚れをきちんと落とします。お洋服から20~30cm程度離して、全体に均等に濡らせるようにかけます。
- 2 お洋服が十分に乾いてからドライヤーで全体に熱をかけます。こうすることで撥水効果がアップします!(乾燥機でもOK!)

撥水スプレー使用上の注意

※必ず天気のよい日に屋外でスプレーして下さい。\*スプレーの噴霧を吸入してしまうと成分中の有機溶剤によって鼻が腫れる場合があります。万が一気分が悪くなった場合は速に医療機関に相談して下さい。\*ご使用前に必ずお読みください。

お洋服でのお悩みは 気軽に当店にご相談ください!

11月号(お申し込みは10月10日迄) サイズ:105×148(はがきサイズ)